

# エストuary

## Estuary 035

～いしかり砂丘の風資料館だより～

### 展示資料のひみつ

リターンズ

重かった…。全体で70～80kgくらいでしょうか。砂利採取現場で発見されたものを、1人で担いで車まで運びました。幸いにも？重機で掘り出された際に2つに折れてしまったようで、そのおかげで自前で回収できました。

「化石」とは、過去の生物の痕跡のこと。このクジラのよに骨そのものが残っていて石化していなくても、化石と呼びます。放射性炭素同位体の年代から、このクジラは約6000年前に生きていたものであることがわかりました。発見地点は現在の海岸線から5km以上離れた場所。当時、少なくとも

もここまでは海だったことがわかります。「縄文海進期」などと呼ばれる温暖期で、海水準が現在より3～4mほど高かった時代です。

この骨、実は最初は下アゴだと思い込んでいました。でもよく見ると、他の骨と接していたような面や角があります。後に海生哺乳類化石の専門家に見てもらったところ、頭骨の一部「前上顎骨（ぜんじょうがくこつ）」だと判明。慌てて展示解説を書き換えました。大きさからヒゲクジラ類、形状からセミクジラ科（セミクジラもしくはホッキョククジラ）のもので、クジラの全長は15m前後とされます。

骨の断面を見ると、けっこうスカスカ。「骨粗鬆（こつそしょう）症だねえ」と、来館者によく言われます。いえ、そうじゃなくて、大きな骨をちょっとでも軽くするためのクジラの工夫なのです。 ■

（志賀健司 しがけんじ）



## 「大は小を兼ねない」ことの悩み 山本のおもいつきノート④

先日、クジラの解体作業に参加してきました。そのクジラは、ナガスクジラのオス、体長約13mの幼齢もしくは若齢個体で、何らかの原因で死亡し、海面を漂っていたところを船の先端部に引っ掛かり、苫小牧港まで運ばれたと推定されたものでした。ナガスクジラは沖合にすることが多く、なかなかお目にかかれない貴重な試料ということで、北海道大学（水産科学）の大学院生が試料採取を行うことになり、その作業の補助でした。

港に車を止め、降りた瞬間に漂う腐敗臭。死後、数日経っていたため分解が始まっており、腹部にはガスがパンパンに溜まっているようでした。風船のような腸に誤って穴を開けると、溜まったガスがドロドロになった内容物と共に顔面めがけて噴き出すこともありました。港を行き交うトラックの運ちゃんや地元の方々、テレビ取材の方などに見守られながら（物珍しそうに眺められながら）、約10人で5時間程かけて各内臓の一部を切り取り、試料採取は完了しました。

さて、作業も終わり、道具を片付けたものの、相変わらず港に横たわっているクジラの残骸。ネズミや小鳥であれば、袋や瓶に入れて研究室に持ち帰り、標本にもできますが、さすがに13mはそういう訳にもいきません。腐敗していても骨格標本としては保存することができます。貴重な試料なので、標本にして保存したいところで

すが、運ぶにしても標本処理をするにしても、その大きさの問題をクリアできず、結局、このクジラは産業廃棄物として処理されたようです。

資料館の目の前の石狩浜にも、まれに海獣類が漂着することがあります。それはアザラシやトド、クジラの仲間でもイルカなどの小さなものですが、小さいとはいっても2～3mはあるので、最低限のサンプリングだけをして、産業廃棄物として処理されることがよくあります。海に生息する動物の分布や生態などに不明な点が多いのは、海での観察が難しいことや、もともと個体数の少なさに加えて、標本化が難しいということも原因の一つと考えられます。トドやヒグマなど、国内に生息する動物の中でも比較的大型の動物が生息する北海道ですから、特にこの悩みの影響力は大きいのでしょうか。だからこそ、貴重な試料を標本として保管できるような体制を整える必要性を強く感じます。 ■

（山本佳奈 やまもとかな）



ナガスクジラの試料採取（撮影：堤正純さん）

## だれかのハテナ？

新しい年度が始まり、一から気を引き締め、いつも新鮮な気持ちでいたいと思っていますが…ちょっと古い話題でごめんなさい。

今から3年ほど前、当時一緒に働いていた原田さんと「だれかのハテナ？」というタイトルで、文章をまとめました。

資料館には2004年のオープン以来、お客様から頂く質問の受け答えを記録しているファイルがあります。これを読み返してみると、けっこう面白かったです。それで、お客様にも気軽に見ただけのような形にしたらと思いつき、「だれかのハテナ？」を作り始めました。よく受ける質問や質問を受けたときに即答できなかった内容を中心に、文献やインターネットで調べたり、学芸員の方に教わる

などして、Q & A形式でまとめたものです。

改めて調べていくと、知っているつもりでもわかっていなかったことや、勝手な思い込みをしていたことなどもみつきり、目から鱗が落ちていくようでした。何とかお客様にお見せできる形にし、資料館の図書コーナーの棚の上に載ったときには、嬉しさがこみ上げてきました。でも、“3年前で終わり”ではありません。今も新たに3項目ほど作成中です。

皆さんも、資料館にいらして“ハテナ？”を探してみませんか。

お客様の質問がある限り、「だれかのハテナ？」は永遠に不滅なのです。 ■

（倉 雅子 くらまさこ）

## 2009年の講座・展示

※内容・日程は変更することがあります。

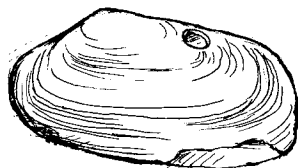
種類	テーマ	日程	対象
野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春	4/19 (日)	小4以上 ※終了
野外講座	地層と化石／フィールド編	6/20 (土)	小4以上
体験講座	地層と化石／ラボ編	7/4 (土)	小4以上
体験講座	勾玉づくり	7/11 (土)	
体験講座	土器づくり (2回)	夏	
体験講座	化石のレプリカをつくる	8/15 (土)	小4以上
オトナの 体験講座	揚鶏骨格標本化計画	9/12 (土)	高校生以上
野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋	10/18 (日)	小4以上
連続講座	石狩大学博物学部 (全4回)	秋	高校生以上
野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬	2月	小4以上
テーマ展	頭骨	7月～8月	
テーマ展	知られざる明治の石狩	秋	
テーマ展	資料館のお宝2010	12月～3月	

野外講座

### 地層と化石 フィールド編

800万年前の地層が見られる厚田の海岸。二枚貝や巻貝の化石もたくさん見られます。地層や化石、メノウなどを観察・採集します。

- 日時 6月20日(土) 13:00～17:00
- 場所 石狩市厚田区望来、古潭の海岸
- 集合 石狩市役所 (バスを用意します)
- 対象 小学4年生～大人  
(小学生は保護者同伴で)
- 定員 20人 (先着順)
- 持ち物 野外に出る服装、長靴、軍手等、あればハンマー等
- 費用 無料
- 申込 6/3(水)～6/17(水)の間に電話で資料館(0133-62-3711)へ



ワタソコウリガイ化石

6月  
開催

体験講座

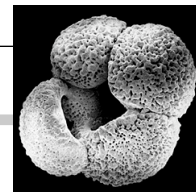
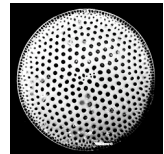
### 地層と化石 ラボ編

地層や化石は大昔の地球環境を教えてくれるタイムカプセル。厚田で見られる800万年前の地層を使って実験します。地層の中のマイクロサイズの化石や火山灰を顕微鏡で見よう！ 普通は見ることのできない深海底の泥も、特別に使います！

- 日時 7月4日(土) 13:00～17:00
- 場所 砂丘の風資料館
- 対象 小学4年生～大人
- 定員 10人 (先着順)
- 持ち物 汚れてもいい服装
- 費用 無料
- 申込 6/3(水)～7/1(水)の間に電話で資料館(0133-62-3711)へ

7月  
開催

珪藻化石



浮遊性有孔虫化石

2つ合わせての受講がオススメ！  
地層や化石のことが、よ～くわかります！

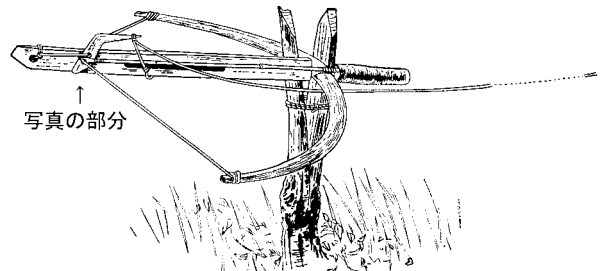
# 置く弓

最近、「置く弓」のことを調べています。先日もこの調査のため函館市の北方民族資料館に行ってきました。ところで「置く弓」とは一体何でしょう。弓は普通、手に持って使いますが、置いて使う弓があるのです。アイヌ語で「アマッポ」とか「アマクー」などと呼ばれるもので、獣の通り道のそばにセットして、通りかかる動物を獲る「仕掛け弓」のことです。

調べるきっかけは、昨年夏に発掘した紅葉山52号遺跡から仕掛け弓の一部が出土したためです。この弓はワナと同じで、セットすると人がついていなくても獲物が獲れるという便利なものです。道内ではアイヌ民族の資料を扱っている博物館ではだいたいこの弓の模型を展示していますから、あるいはご覧になった方も多いかと思えます。私自身は、この種の弓があることは知ってはいましたが、実物を見るのは紅葉山52号遺跡で出土したものの（写真）が初めてで、最初は一体に使うものか皆目見当が付きませんでした。

仕掛け弓には何種類かあるようですが、もっとも一般的なものの使用法は、図のように獣の通り道のそばにセ

仕掛け弓の全体図



（「アイヌ民族誌」アイヌ文化財保存対策協議会編（1970）より）

ットして、道を横断する糸を張ります。この糸は弓の台に付いている引き金（木製）に結びつけられており、動物が糸にかかると引き金が引かれ矢が発射される仕組みになっており、キツネ、テン、ヒグマ、シカなどを獲ったといわれます。これらは毛皮目的で捕獲され、動物の大きさや習性により、弓の大きさ、高さなどさまざまな工夫があったようです。しかし、この弓は矢に毒を使うことなどから明治に禁止されてしまい、具体的な使用法や製作法などについては、まだまだ謎の部分が多く細かな調査が必要です。

紅葉山52号遺跡で出土した仕掛け弓で何を獲っていたかは不明ですが、16世紀ごろ遺跡付近で毛皮目的の猟が盛んに行なわれていたことが推測できます。

（石橋孝夫 いしばしたかお）



出土した仕掛け弓の一部（紅葉山52号遺跡）

## 編集後記

「資料館スタッフ＆ボランティアの個人的なお宝」と題した小さな展示を、5月中やってます。その中で、まさに個人的に興味深いのが「チョロQ」シリーズ。ご存じ、ゼンマイで走るミニカーですが、実は乗物だけでなく「チョロじゅう」というパリエーションもあったのです！ それがおか、資料館で確かめてください。（ゴ〇〇とか、ね〇〇男とか。）（け）

### ■最近の「いしかり博物誌」（石狩市広報に連載中）

- ☞第99回：イルカの足（09年3月号）
- ☞第100回：100回記念特集！増ページ（09年5月号）

★5/5（火）は開館、5/7（木）は休館となります。  
★5/16（土）は臨時休館いたします（資料整理のため）

いしかり砂丘の風資料館

開館時間 午前9時30分～午後5時00分  
休館日 毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始  
入館料 300円（中学生以下は無料）、  
団体料金240円（15名以上）  
交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、  
「石狩温泉」下車、徒歩1分  
（石狩温泉「番屋の宿」向かい）

エヌチヨアリ No.35

2009年5月1日発行

いしかり砂丘の風資料館  
〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4  
TEL/FAX: 0133-62-3711  
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp  
<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>